

令和7年度 北海道函館聾学校グランドデザイン

目指す子ども像（校訓）

- 広い心で 助け合う子ども（徳育・協働）
- よく考えて 学ぶ子ども（知育）
- 元気で たくましい子ども（体育）

学校教育目標

- すすんで知識・技能を磨き、課題を解決する子どもを育てる。（知識・技能）
- よく考え、判断し、適切に表現する子どもを育てる。（思考力・判断力・表現力）
- すすんで学び、たくましく生きる、心豊かな子どもを育てる。（学びに向かう力・人間性等）

目指す教師像

- 幼児児童生徒の気持ちを大切に、必要な配慮に対して寄り添える教師
- 教育的愛情をもち、**幼児児童生徒の可能性を追求する教師**（※ゴシック太字は今年度の重点）
- 豊かな人間性と誠実さをもち、信頼される教師
- 創造性あふれ、前向きに挑戦しようとする教師
- 専門性や指導力向上のため、常に学び続ける教師（授業改善のためのICT技術を含）
- 互いに支え合い、組織的・計画的に業務を推進する教師

10年後、20年後の函館聾学校

- 学校教育目標実現への取組
- 積極的なCSの取組
- 盲学校と共に行う
- 創立130年に向けた取組
- 北聴研【函館大会】の成果を実践し、研究成果をまとめる取組

- 120年目に植樹した桜の成長
- 創立130周年以降の本校の姿

本校の目指す学校像

- (1) 子どもが進んで学びたい学校
- (2) 保護者が安心して通わせたい学校
- (3) 教職員が働きたい学校
- (4) 地域の方々が寄りたい学校

幼児児童生徒の実態（身に付けさせたい力）

- ・一人一人の実態に応じた学習を支える言語力（生活言語及び学習言語）を身に付ける必要がある。
- ・豊かな経験に基づいた知識を身に付け、その知識を活用する力を身に付ける必要がある。
- ・具体的思考を積み重ね、抽象的思考を深めようとする力を身に付ける必要がある。
- ・判断力や自己決定力を身に付ける必要がある。

令和7年度の重点

- ・「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせる教育活動を効果的に推進する。
- ・言語指導・教科指導を充実させ、確かな学力の形成を図る。
- ・ボランティアバンクを活用した地域学校協働活動で効果的な教育活動を推進する。
- ・教職員の指導技術と専門性の向上を図る研修を充実する。
- ・ICTを活用した授業実践を更に推進し、教育的効果を高める。
- ・安全・安心な教育環境で教育活動を推進する。
- ・質の高い教育活動と効率的な働き方を実現する。

【協働する教職員】

より一層充実させたい課題

- ・ボランティアバンクを活用した効果的な教育活動の推進
- ・多様な集団化を工夫し子どもが学び合う指導の推進
- ・実態差のある幼児児童生徒に対する個別最適な学習の推進
- ・AIドリル等、ICTを活用した教育の一層の推進
- ・教職員の専門性向上の一層の推進

指導体制の充実（実施するために何が必要か）

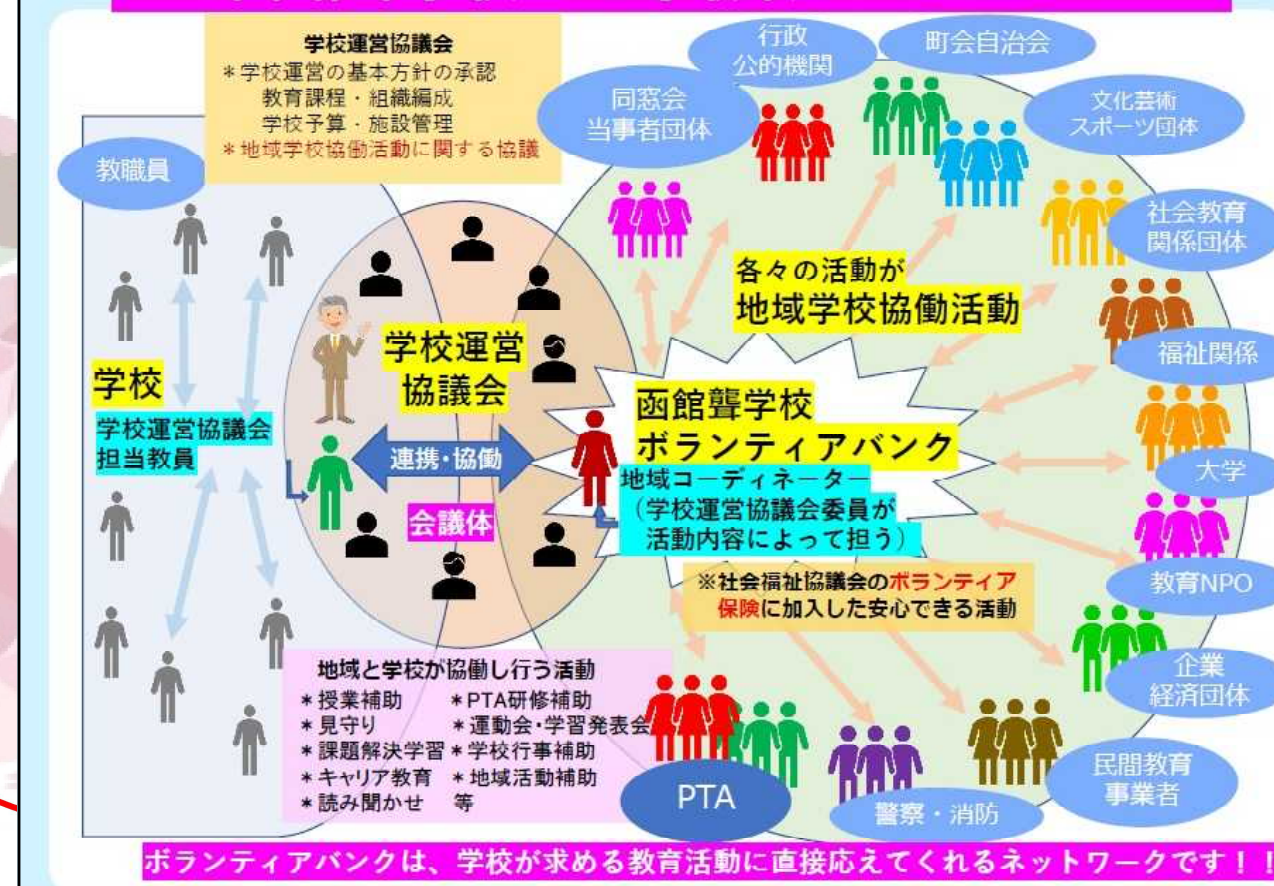
- ・地域資源を活用した体験学習と外部人材を活用した教育活動の推進

何ができるようになるか（学校教育の基本）

- ・学習を支える言語力
- ・豊かな経験に基づいた知識
- ・知識の活用能力
- ・抽象的思考力の基盤
- ・判断力や自己決定力

資質・能力の育成

函館聾学校の地学協働のイメージ



何が身に付いたか（学習評価を通じた学習指導の改善）

- ・個別の教育支援計画の目標
- ・個別の指導計画（自立活動）の目標
- ・成功体験や達成体験に基づいた自己有用感や自信
- ・全ての基礎になる生きて働く知識・技能
- ・主体的に取り組もうとする態度

ボランティアバンクの活用（例）

- ・絵本の読み聞かせ
- ・クリスマス会のサンタ
- ・ピアノ伴奏
- ・グラウンド整備
- ・運動会や学習発表会の道具運びや片付けの手伝い
- ・発音明瞭度検査の聞き取り
- ・児童生徒と一生に行う奉仕活動（ゴミ拾い）
- ・学級園の手伝い
- ・行事の写真撮影係
- ・秋祭りにおけるお店のお店屋さん
- ・節分の鬼や福の神係
- ・散歩や水遊び等季節の遊びの補助
- ・音の遊びを教えてくれる先生
- ・教育相談や保護者の研修時の子どものお世話
- ・地域の要請に応じた出前授業の補助
- ・当事者の立場に立った防災学習等

どのように学ぶか（教育課程の実施）

- ・子どもが主体的に向き合う学び
- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び
- ・地域と連携することで、人に支えられる安心感をもちながらの学び

幼児児童生徒をどのように支援するか（配慮を必要とする児童生徒への指導）

- ・個別の教育支援計画の活用
- ・個別の指導計画（自立活動）の活用
- ・地域の多様な人材や社会資源を活用した体験学習やキャリア教育

家庭・地域との連携・協働（何が必要か）

- ・積極的なPTA活動
- ・学校運営協議会の活用
- ・町会・幼保小中学校等との連携

体験活動やキャリア教育について

- ・子どもの遊びの発想を大切に、実物に触れたり、見に行ったり、交流できるような活動。
- ・生徒主体の奉仕活動やボランティア活動など、周りの人に喜んでもらえる自己肯定感を高める活動。
- ・子どもの興味・関心に即した遊びを経験的に、子どものアイデアで発展させられる活動。
- ・教科に結び付けられる、教科学習と連動した活動（例：社会科と調べ学習、外国語と国際交流など）
- ・将来の自立的な生活を目指して実生活の基盤となる学習活動。
- ・多様な他者との交流学習。（他小学校、地域の人など）
- ・地域、職場、福祉との連携による充実した体験活動。
- ・つまみ食い生活習慣の定着に向けた指導が行われる体験学習。
- ・自己の心身の状態に気づき、表出、対処できるように必要なための学習活動。
- ・卒業生や聴覚障がいをもって働いている方の体験談を「ようこそ先輩」として聞く学習活動。
- ・自然体験学習として、農業（稲作、畑作、果樹）や漁業、製造業などの見学や体験をして学ぶ学習活動。
- ・交流校や居住地域と交流及び共同学習や行事や学習を一緒に行う学習活動。

育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）			
学部	すすんで知識・技能を磨き、課題を解決する子ども	よく考え、判断し、適切に表現する子ども	すすんで学び、たくましく生きる 心豊かな子ども
乳幼児 相談室	・身の回りのものや自然、玩具や本を見たり触れたりして遊び、興味・関心を広げる。 ・身近な音楽やリズムを楽しみ、自由に身体を動かす。	・生活や遊びの中で、身近な人たちの会話に触れ、幾つかの言葉が分かる。 ・身近な大人と声や身振りなどを使ったやりとりを通して、声や幾つかの言葉を楽しんで使い始める。	・生活や遊びの中で、身近な人たちにあやしてもらったり、遊んでもらったりする。 ・表情や眼差し、触れ合いで、身近な大人との共感的理解を高める。
幼稚部	・経験や興味・関心の幅を広げるとともに、コミュニケーションの基礎的な力を育てる。	・好奇心や探究心を大切にするとともに、豊かな感性や表現する力を養う。	・身近な人や自然とのかかわりを大切にし、豊かな心情や道徳性の芽生えを培う。
小学部	・学んだことをつなげて考えたり他の場面で活用したりすることができる子どもを育てる。	・自分の力で考え、他者に配慮しながら伝え合うことができる子どもを育てる。	・将来の社会参加に向けて自ら考え取り組むことができる子どもを育てる。
中学部	・生徒の実態に合わせた計画を立て、取組の中で主体的に課題を解決できるように努める。	・生徒の実態に応じたコミュニケーション手段を用い、言語力の充実を図る。	・学年・教科間・地域のつながりを意識した指導を計画し、横断的・総合的な学習活動の充実を図る。

資質・能力の育成に向けた具体的な取組（何を学ぶか・どのように学ぶか・どのように支援するか）						
取組事項	学部	すすんで知識・技能を磨き、課題を解決する子ども		よく考え、判断し、適切に表現する子ども		すすんで学び、たくましく生きる、心豊かな子ども
(例)	内容	乳幼児相談室	- 聞こえの状態、個々の発達段階に合わせた、活動や教材を提供する。 - 運動・感覚機能への働き掛けを行う。	- 教材や活動内容について、興味・関心を活かすとともに、個々の状態に合わせて柔軟に提供する。 - 個々の聞こえや、発声、教材の程度に合わせて、視覚的な教材の種類や量などを調整する。 - 保護者のニーズに合わせ、保護者と協働する。	- 身近な大人とのアイコンタクトなどの共感的理解を広げる環境や活動を提供する。 - 身の回りのものや自然、実物に触れたり、安心して親子で活動に取り組みたりできるような環境や活動を提供する。	
	方法	幼稚部	- 安心して活動に取り組める環境づくりと保護者との連携に努める。 - 子どもの良さや可能性などを把握しながら活動を改善し、計画的に展開する。 - 見通しをもって活動できるように視覚的教材やICTを効果的に用いる。	- 子どもが自分の気づきや考えを取り入れた活動ができるように工夫する。 - 心を動かす実体験を通して、自ら表現したいという気持ちを高める。 - 表現活動や絵本の読み聞かせなどの充実を図る。	- 成功体験や称賛される体験を積み重ねていくことができる活動の工夫に努める。 - 保育園や小中学部との交流、屋外遊びや散歩などを通して、身近な人や自然とのかかわりの場を広げる。	
		小学部	- 主観的・客観的・共感的な実態把握を基に適切な課題設定を行う。 - 子どもの興味や関心を引き出し、分かる授業を展開する。	- 生活体験や自然体験などの体験活動の機会を豊かにする。 - ICTを活用した学習活動の充実を図る。	- 多様性を尊重し、互いのよさを生かして協働する活動や指導の工夫に努める。 - 地域等の人的・物的資源を活用したりろう・難聴者とかわる活動を取り入れたりする。	
		中学部	- 安心して学習に取り組める環境づくりに努める。 - 生徒の指導目標を明確にして授業を行い、必要に応じて指導内容の精選や改善を図る。 - デジタル教科書やタブレット等の機器を有効に活用し、指導の効果を高める。	- 状況に応じた話し方や態度を身に付けさせる。 - 経験したことや伝えたいことを文章や資料にまとめ、相手に伝える力を身に付けさせる。 - 聴覚口話法のみならず、指文字、手話、文字、ICT機器等を併用しながらかわるようにする。	- 主体的に取り組めるよう見通しを持たせ、学年・教科間・地域のつながり意識しながら、実物・実体験・本物に触れさせる教育活動を推進する。 - 成功体験を積み重ねていく指導を心掛け、生徒の学習意欲の向上を図るようにする。 - ICT教育を活用し、生徒の学習への興味・関心を高め、学びに向かう力を身に付けさせる。	
評価指標	学校評価項目1ー（1）		*数値で標記		学校評価項目1ー（2）	*数値で標記